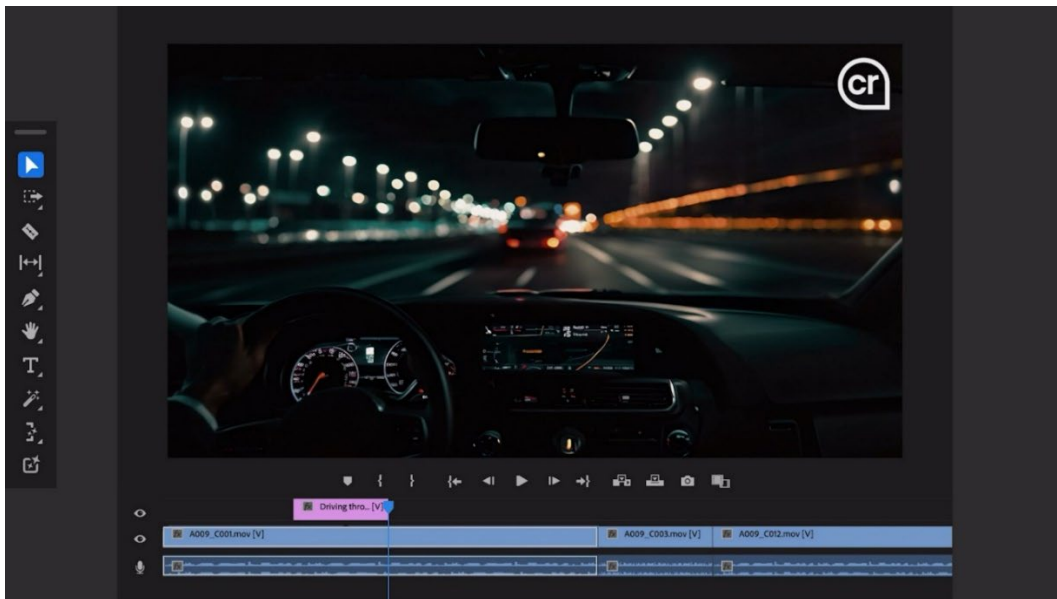




アドビ株式会社
141-0032 品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー

アドビ、Adobe Premiere Pro において プロフェッショナルビデオのワークフローを変革する 画期的な AI イノベーション機能を先行公開

- Adobe Premiere Pro に今年導入される新しい生成 AI ビデオツールは、既存の映像クリップの生成拡張から、シーン内のオブジェクトの追加や削除まで、ワークフローを効率化し、新たなクリエイティブの可能性を解放
- Adobe Premiere Pro のビデオおよびオーディオ編集ワークフローを強化し、誰でも作成してアイデアを練ることができる Adobe Firefly のビデオモデルを開発中
- OpenAI、Pika Labs、および Runway からのサードパーティ製の生成 AI モデルを Adobe Premiere Pro から直接利用できるようにし、ユーザーが日常的に使用するワークフロー内で様々なモデルの長所を活用することが容易に
- Adobe Premiere Pro の AI 搭載したオーディオ機能が 5 月から一般提供開始、オーディオ編集がより速く、簡単、直感的に



動画は[こちら](#)

※当資料は、2024年4月15日（米国時間）に米国本社から発表予定の[プレスリリース](#)の抄訳版です。

【2024年4月16日】

アドビ（Nasdaq: ADBE）（本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ）は本日、Adobe Premiere Pro における、ビデオ制作とプロダクションのワークフローを再考し、プロの編集者がハイペースなビデオ制作に追いつくために必要な、新しい生成 AI イノベーション機能を先行公開いたしました。Adobe Premiere Pro に今年登場する新しい生成 AI ツールにより、ユーザーはシーン内のオブジェクトの追加や削除、また、既存の映像クリップ拡張など、全てのビデオ編集作業を統合できるようになります。これらの新しい編集ワークフローは、Adobe Firefly モデルファミリーに加わる新しいビデオモデルによって強化されます。アドビは、イメージング、ビデオ、オーディオ、3D など深い専門知識が必要となるカテゴリで Adobe Firefly AI モデルの開発を続けており、これらのモデルを Adobe Creative Cloud と Adobe Express で密接に統合していきます。

アドビは、サードパーティの生成 AI モデルを Adobe Premiere Pro などのアドビのアプリケーションに直接取り込むというビジョンを計画しています。Adobe Creative Cloud には、常に豊富なパートナーとプラグインのエコシステムがあり、Adobe Premiere Pro は、今後あらゆるワークフローに適合する最も柔軟で拡張可能なプロフェッショナルビデオツールとして進化していきます。アドビのユーザーは、次世代のエンターテインメントやメディアを制作・編集する際に、選択肢と無限の可能性を求めています。今回紹介した内容としては、将来的にプロのビデオエディターがいかにして Adobe Premiere Pro に統合された OpenAI と Runway のビデオ生成モデルを活用し、プロジェクトで編集するための B ロールを生成することができるかを示し、また Pika Labs で生成拡張 ツールを使用して映像クリップの最後に数秒を追加する方法も紹介しています。

アドビは、Adobe Firefly と様々なサードパーティモデルを搭載した新しい生成 AI 機能を提供することで、Adobe Premiere Pro で日常的に使用するワークフローを離れることなく、さまざまな新機能へのアクセスを可能にします。

アドビのクリエイティブ製品グループ担当シニアバイスプレジデントであるアシュリー・スティル（Ashley Still）は次のように述べています。「アドビは、ビデオ制作とプロダクションのワークフ

ローのあらゆるステップを再考し、クリエイターが彼らのビジョンを実現するための新たなパワーと柔軟性を提供しています。生成 AI とイノベーションを Adobe Premiere Pro のワークフローの中核に深く組み込むことで、映像クリエイターが作品制作に集中できるようにつつ、日々直面する本当の課題を解決します。」

また、アドビは、「インタラクティブなフェードハンドル」、「クリップバッジ」、「新しいクリップカラーと波形デザイン」、「AI 搭載のカテゴリのタグ付け」など、現在ベータ版で提供している Adobe Premiere Pro の AI を活用したオーディオ機能を 5 月に一般提供開始することも発表いたしました。

Adobe Premiere Pro におけるジェネレーティブ AI の未来

アドビは、Adobe Firefly の新しいビデオモデルにより強化された、今年後半に Adobe Premiere Pro に登場する生成 AI ワークフローのテクノロジーを先行公開しました。さらに、序盤の「スニーク」では、プロの編集者が将来、Open AI や Runway のビデオ生成モデルを活用して B ロールを生成する方法や、Pika Labs と生成拡張ツールを使用して映像クリップの尺の最後に数秒映像フッテージを追加する方法を紹介しています。

- **Generative Extend (生成拡張)：**映像フレームをシームレスに追加してクリップを長くすることで、編集のタイミングを完璧に合わせたり、スムーズなトランジションを追加したりするのが簡単になります。この画期的な技術は、プロのエディターが毎日直面する一般的な問題を解決し、編集の微調整に必要な追加のメディアを作成したり、映像クリップを追加して音声のビートに合わせたり、トランジションをより適切にカバーしたりすることを可能にします。
- **Object Addition & Removal (オブジェクトの追加と削除)：**動画内のオブジェクトを選択してトラッキングし、置き換えるだけで、不要なオブジェクトを削除したり、演者の衣装を変更したり、絵画や机の上の写実的な花などのセットの装飾をすばやく追加したりできます。
- **Text to Video (テキストから動画生成)：**Adobe Premiere Pro 内で直接、新しい映像を作成できます。プロンプトにテキストを入力するか、参照画像をアップロードするだけです。これらのクリップは、アイデア出しやストーリーボードの作成、実写映像を補強するための B ロールの作成に使用できます。

生成 AI に関する初期の議論の多くは、「最高の」AI モデルを生み出すための企業間の競争に焦点が当てられていましたが、アドビはより多様性に富んだ先の未来を見据えています。アドビの数十年にわたる AI の経験から、AI が生成したコンテンツは、日常生活の一部となっているときに最も役立つことがわかっています。アドビの多くのユーザーにとって、生成 AI はクリエイティブの方向性を模索するための出発点であり、インスピレーションの源泉です。アドビは、業界標準のツールとシームレスなワークフローを提供し、ユーザーがあらゆるプラットフォームのあらゆるソースからのあらゆる素材を使用して、ユーザーが想像するや否や即クリエイティブを作成できるようにすることを目指しています。アドビは、Adobe Firefly やその他の特殊な AI モデルに関わらず、アドビアプリケーション内から統合プロセスを可能な限りシームレスにするよう取り組んでいます。

アドビは、責任あるイノベーションにコミットして独自の AI モデルを開発し、サードパーティのモデルを自社のアプリケーションに統合する際に、アドビの安全基準に一貫性が保たれるよう、AI が学習したことを適合する予定です。アドビは、[Content Authenticity Initiative](#)（コンテンツ認証イニシアチブ、CAI）を創設した企業の 1 社として、アプリケーション内で作成されたアセットにコンテンツクレデンシャル（オンラインコンテンツの「成分表示ラベル」の役割を果たす無料のオープンソース技術）を付与することを誓約します。これによりユーザーは、コンテンツがどのように作成されたのか、またアドビのプラットフォームで作成されたコンテンツを生成するためにどのような AI モデルが使用されたのかを確認することができます。

AI を活用したオーディオ機能が Adobe Premiere Pro で一般提供を開始

いくつかの Adobe Premiere Pro の AI を活用したオーディオ機能は現在ベータ版で提供されていますが、5 月から一般提供され、エディターがサウンドを正確にコントロールし、品質を向上させるために必要なすべてを提供します。最新機能は以下の通りです。

- **インタラクティブなフェードハンドル**：エディターは、クリップハンドルをドラッグするだけでオーディオフェードを作成できるため、カスタムオーディオトランジションをこれまで以上にすばやく作成できます。
- **オーディオカテゴリーのタグ付けができる新しいエッセンシャルサウンドバッジ**：AI がオーディオクリップを会話、ミュージック、効果音、環境音として自動的にタグ付けし、新しいアイコンを追加するので、エディターは作業に適したコントロールにワンクリックで即座にアクセスできます。

- **エフェクトバッジ**：新しいビジュアルインジケータにより、エフェクトがあるクリップを簡単に確認でき、新しいエフェクトをすばやく追加、また、シーケンスからエフェクト・パラメータを自動的に開くことができます。
- **タイムラインの波形のデザインも一新**：新しく華やかな配色でシーケンスが読みやすくなり、波形はクリップのトラックの高さに応じてインテリジェントにサイズ変更されます。また、不要なノイズを即座に除去し、録音状態の悪いダイアログクリップの品質を向上させる、AI搭載の「[スピーチを強調](#)」ツールは今年の2月から一般提供を開始しています。

■「アドビ」について

アドビはデジタル体験を通じて世界に変革をもたらします。

アドビに関する詳細な情報は、web サイト (<https://www.adobe.com/jp/about-adobe.html>) をご覧ください。

© 2024 Adobe. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.